

Review of Operations

営業の概況

経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の回復や雇用環境の改善により、景気回復基調で推移いたしました。

食品業界におきましては、消費税総額表示の影響もあり、一時的に消費が低迷するとともに、販売価格の下落により、厳しい経営環境で推移いたしました。

また、外食業界におきましては、企業間競争の激化による既存店の減収に加え、相次ぐ台風上陸などの天候不順により、激しい変動がみられました。

このような状況の中で、当社グループ(当社及び連結子会社)は、食品事業におきましてはエリア別戦略の強化を図り、またレストラン事業及びミオミオ事業におきましては積極的なメニュー開発及びスクラップ&ビルドに取り組んでまいりました。

しかしながら、厳しい経営環境の影響を受け、当連結会計年度の売上高は前期比横ばいの100億43百万円、営業利益は6億22百万円(前期比11.6%減)、経常利益は5億40百万円(前期比11.7%減)にとどまりました。また、固定資産減損会計の早期適用による減損損失などの特別損失20億33百万円を計上した結果、当期純損益は9億53百万円の損失となりました。

次期の見通し

今後の見通しといたしましては、引き続き景気は緩やかな回復基調にあるものと予想されるものの、原油価格の高騰等もあり、先行きは不透明な状況で推移するものと思われまます。

このような状況下におきまして、当社グループは創業の原点に立ち返り、経営の基本方針に基づく事業運営にさらに積極的に取り組み、平成18年3月期の連結業績予想につきましては、売上高102億円(前期比1.6%増)、経常利益6億70百万円(前期比23.9%増)、当期純利益2億50百万円を見込んでおります。

